

JR津田沼駅南口開発の進展に伴う児童増加対応について 向山小学校保護者対象説明会 議事録（要約）	
開催日時	平成25年10月28日（月曜） 16：00～17：30
場 所	向山小学校
出席者	辻学校教育部長、市瀬学校教育部参事、田久保学校教育部次長、 小野寺教育総務課長、島本学校教育部主幹

島本主幹 （JR津田沼駅南口開発の進展に伴う児童増加対応について、資料に基づいて説明）

【質疑応答】

質問者 今、小学校の説明だけだったが、今後、中学校が生徒増になった場合どのような懸念があるのか。

回答者 中学校については、最大8教室の不足が生じる可能性があるという推計結果の中で、現段階においては、中学校部分については、現行のままというような形で整理をさせていただいている。要するに中学校については、増築というような形で考えている。

質問者 谷津三丁目に住んでいる。今の中学校区は第一中学校だが、第七中学校に変更になる可能性はあるのか。

回答者 今、谷津南小学校も一部七中で、一部が二中に行っている状況になっている。今回、仮に谷津南小学校の学区に変更となった場合についても、このエリアについては、第一中学校ということで、今はなっている。

質問者 就学中の児童、その兄弟については、学区変更の際し、そこに対して配慮すると言っていたが、具体的にはどういう場合か。

回答者 基本的に学区が変わるとした場合についても、現にその変更段階で就学しているお子様で、変更エリアのお子様については、基本的には卒業まで変更はしない。あわせて、御兄弟についても、仮に27年度に変更し、上のお子

様が4年生に進学になる。そして下のお子様は新1年生になるというような場合については、一つの御家庭で2つの学校にまたがるというようなことがないように配慮しなければならないというように考えている。

質問者 逆に新1年生に就学する際に、谷津南小か向山小かどちらも選べるということはあるか。

回答者 今のお話は新1年生にお子様が入った場合か。

質問者 私事だが、上の子が5年生のときに、下の子が新1年生になる。それで、例えばお姉ちゃんが向山なので、向山に行くという考えもあると思うが、御近所の、例えばお子さんが新1年生になったら、南小に行くとなると、ちょっと迷いも出てくる。そういう場合は各家庭で決められるのか。

回答者 これについては、その配慮するという中には、親御さんが選択というような形の対応も一つにはあると考えている。卒業前、あるいは上のお子さんと同じ学校というお気持ちがある御家庭はそういう対応。変更先に下の子を行かせるということについては、基本的にはその保護者さんのほうの判断ということで、それを優先させるということ考えている。

質問者 今年12月からの対策として、一定の方向性を出すを必要があると書いてあるけれども、予算を組むということは、学区変更案の中からどれかを選ぶということなのか。また、この専門業者の推計結果という数値が細かく出ているが、現在建っているマンションをもとにしたデータということで、この数字をもとに今後も計画を立ていくのか。

回答者 12月までに方向性を決めるという中には、その通学区域を変更する、あるいはしないということも含めて、通学区域を変更しないのか、変更するのであれば、区域的にはこういう方向というようなところの中で、この全ての案の中からどれかを選ぶというようなことになるのか、その案の中でも修正をし、お示しをできるかというような話は、今、精査をしている状況である。通学区域を変更しない場合も、通学区域を変更する場合も、いずれも予算措置の対応は必要になってくるということから、12月までには方向性を決めるという考え方である。

もう一点の、推計結果については、基本的に、その開発エリアの中の将来世帯数、2,800世帯ということを見て推計をしている状況である。

全て入居を終えた段階というような中で児童数推計を見ているので、基本的にはこの推計の結果をもとに進めている。ただし、仲よし幼稚園跡地開発に伴う750世帯、これは谷津小の56学級には含まれていない。一方、通学区域を変更した場合という案については、750世帯も奏の杜と同じ傾向というような中で児童数を見ており、推計の検証をさせていただいている。基本案の56学級を分離運営するということには、56学級という推計結果から、750世帯については、谷津小では受け入れられないという判断、考え方で整理をさせてもらっている。仮に通学区域を変更せずに、高学年分離をさせていただくとなった場合については、別途、仲よし幼稚園跡地の750世帯については考えていかなければならないだろうということがある。また、通学区域を変更した場合については、谷津一丁目エリアの中で750世帯の児童増加については見ている。

回答者 大きなマンションが2つ出来るうちの 하나가869戸、これは奏の杜二丁目の中でできる。それともう一つは仲よし幼稚園の跡地、文化ホールの裏側の方に750戸が建設されるというもの。まず869世帯のマンションについては、2,800戸、7,000人という都市計画の中に入っているので、この数字については、最初に説明させていただいたとおり、基本案つまり5、6年生の分離案、平成35年度に56学級の1,975人の子どもたちになるという中には入っている。ただし、このときには750世帯、これは含まれていない。推計した時点では入っていなかった。その後、教育委員会として、通学区域を変える案として、奏の三丁目、谷津一丁目、谷津七丁目、いろいろと変更となってくる場合には、この750戸のマンションについても、その推計の中には含まれている。基本案には入っていないが、学区を変更する案という中では、750戸のマンションの推計も現段階での推計ということが入っている。

ただ、御指摘のように、今は721戸の推計、アンケート調査を基にして、推計の見直しをしている。就学前の子どもたちが非常に多かったという推計結果が出ているので、これがどのように変化していくか、これからのマンションの売り出しでも大きく変わってくるかもしれないというふうには思っている。

質問者 今の話だと開発整備のことに関する話はわかったが、四丁目や二丁目にも戸建てが増えたりだとか、マンションとか建設されているけれども、この開発地域以外の部分についても、将来的なことを考えていただいているのか。

回答者 今回の推計については、習志野市として、基本構想の策定をするというようにことの中で、平成 23 年度にオール習志野的な人口推計を行っている。そういう中で、同じ業者に推計をしていただくというようなことが、その今後の動向の中では、全市的な形で推計されていると御理解いただければと思う。

質問者 お話を聞いていると、子どもにすごく負担がかかり過ぎることが、この先もすごく心配になるし、先ほどの学区変更の案というのは、全く子ども目線ではなくて、これからどんどん開発していく中で、子どもは増加していくわけなので、もう少し子どもに対する目線で考えていただくことはできないのかなというのと、予算の中で、他に学校をつくるということもできないのか、こんな単純な話で申しわけないけれども、元々住んでいる者としては、余りにも壊されるし、ここで子どもを育てていこうと思って考えているのに、マンションのために、違うところに追いやられるというのはすごく不本意なので、もう少し子ども目線で考えてほしい。

回答者 増加するであろう子どもさんをどのように受け止めていくかといったときに、今、現状の中で対応しようとしながら、それぞれに大きな課題はあるけれども、受け止めをしようとする中ではこういう形になってしまう。これに対する御意見をいただこうというようなことで今進めている。

また、土地が余っているのであれば新設校をというようなお話について、この開発をするエリアの中で、当初、推計的に学校を1つ新設というようなことを考えなければいけなかったということはあるが、学校用地という形のものが用意されていないのが一つある。その上で都市計画決定をされている。現在、開発エリアの中は空地になっている現状があり、これまでの地域説明会の中で、公園用地に学校をというようなお話もいただいているわけけれども、この開発エリアについては、都市計画決定がされている。これはここの地権者の方々が組合をつくって、区画整理を行っている事業であり、それぞれ、地権者の方がこういった用地を持っているということが一つ前提としてある。そういう状況の中で、土地利用として保有している用地がないということがまず一つある。

また、ここに 2.2 ヘクタールの近隣公園予定地というような形で、公園を整理するという計画決定がされている。それであれば、ここは市の持ち物なのだから、ここに学校をというような御要望もいただいている。ただし、ここの公園予定地についても、そもそも、この開発エリアの中で必要とされる公園用地として、都市計画決定をされている状況がある。ここに学校をと

というようなことについては、法令面、あるいは時間的な猶予等を考えたときにも、現実的には進められないのかなというようなことの中で、我々としてはその管理を任されている谷津小学校、向山小学校、あるいは第一中学校の敷地の中で、今回の対応を考える必要が出てきているのが現状である。

質問者 今、学区を変えたところで、向山小学校と谷津小学校の児童は第一中学校の学区ということで、当面はこのままで変わらないということだが、小学校と中学校は一体として検討を進めてほしい。

回答者 第一中学校については、今の学校区のままで考えている。一中の校舎において、不足が生じるけれども、それについて現段階では、増築の中で対応を考えている。今の段階では、あくまで推計というところで、難しいところはあるが、現段階の中では、一中については、教室不足になる推計であるけれども、対応できるというように考えている。

回答者 中学校と小学校の大きな違いは、やはり3学年とか、6学年とかというような大きな違いはある。今、説明の中で、推計上、第一中学校は平成39年に31学級、つまり1つの学年に対して10を超えるような大きな学校になる。現在、普通教室が23教室ある中で、8教室程度、普通学級が足りなくなるのではないかなという推計をしている。つまり学区を変えないでも、8学級規模の増築をする中で、対応可能であるということである。

子どもたちの目線でという御意見があったが、そういうふうに保護者の皆さんが感じられたということは、我々の説明や対応に非常に不備があったのかなとは思いますが、我々、子どもたちの目線で考えていないとか、子どもたちのためにということを全然考えずに、数字だけを動かしているということではないということを理解していただきたい。例えば谷津小学校の学区を変えないで、56学級、1,975人の子どもたちが、体育館を使ったりだとか、運動場で伸び伸びと活動できるのであれば、ひょっとしたら、学校を変えないで済むことも考えられると。それと、学区を変えた場合には、少しはこの学校で育てようと思ったところを、そういう保護者の皆さんのお願いや御要望を叶えられないところもあるかもしれないけれども、仮に向山小学校に来たときには学級数は増えるけれども、教育活動が、その中で保証されているということがあるのではないかなということも考えている。これまでの対応等を反省させていただくが、全然子どもたちの目線で考えていない、「単なる数合わせ」ではないということを御理解いただければと思う。

質問者 学区変更案の中で、袖西小に持っていく案に関して、地域の説明会でも、やはり今日の説明会の中でも、やはりこれはどうなんだろうというすごく大きな疑問を感じている。子どもの目線で考えていないという要因の一つに、この案が非常に影響しているのではないかなという気もする。多分、今年の12月までに方向性を示す段階では、修正した案も作成されると思うが、10月の通学区域審議会の前の段階で、見直していただくことはできないか。

回答者 我々は皆さんの声を聞くという意味では、そういう声を大事にしながら、それこそ子どもたちのためにどういう方向がいいのかなということを探りたいということでの説明会であるので、その辺は会長さんのおっしゃるとおりであると認識している。

また、今度の通学区域審議会には、この谷津小学校の件は入らない。今度の通学区域審議会は、別の地域に関する案件になるので、今は皆さんの忌憚のない御意見を聞きながら、どんな方法がいいのかというのを探っている段階だということをお理解いただければと。先ほどの保護者の皆さんの「えー」というお声は、偽らざる心をあらわしているものだというふうには思っているので、しっかりと受け止めたいと思う。

質問者 結局いつまでにこの学区の変更をするならする、しないならしないということが確定をされて、確約をされるのか。

回答者 基本的には、最終的に決めるという段階については、今後の審議会等の会議があるので、3月末ということ考えている。12月の段階では、一定の方向性というようなことで、それを踏まえて、諮問事項を整理させていただいて、通学区域審議会にというような形。その上で、最終的な方針として決定するのが3月末というような形で考えている。

質問者 時間がもうあつという間であると感じる。ここに至るまでに、こういった問題点が少なからず出てきているのはわかっていたと思うが、この説明をしていただく機会も少なかったし、私たちに認知させる時間というののもかなり少なかったと思う。仮に、谷津南小に行かなければいけないとか、そういった決定も非常に近々の話をされているとなると、やはり先ほどから中学校区のほうについてもかなり不安を持っていらっしゃる方もいるが、その点も自分たちの子どもたちが中学生に上がるときに、また近々になって、やっぱり一中に行けなかったので、七中に行ってくださいとか言われることも、はなはだ困る話である。なぜこんな近々にならないと、こういった説明をしてい

ただけなかったのか。3月のいつまでに、今後のことも含めて、こういった形で私たちに対する説明会なり、報告していただけるのか。

回答者 本日を含めて、御意見をいただき、そういう一定の方向、こういったものを精査し、これまでお話をしている案、これに評価をさせていただいて絞り込みをする中で、修正できる部分については修正をさせていただいて、改めて、こういった方向というようなお話を、また11月の中旬以降の段階でお話しさせていただこうというように考えている。その中で、最終的には変更をするという方向のお話になるのか、変更しないお話になるのかという部分について、保護者及び地域住民の意見を含めて整理をさせていただくというように形で、時間がないというところの中で、大変申しわけないというところがあるけれども、現状のお話をさせていただいて、御意見をいただく。その御意見をどのように修正していくかということを考えているので、再度、お話をさせていただく段階で、ある程度整理したお話ができるのではないかとこのように考えている。

次の説明会の中では、学区の変更するのであれば、今はこういう変更、変更しないのであれば、こういう対応というようなお話をさせていただく考え方で整理をするので、大変申しわけないが、御理解をいただければというように考えている。

～閉会～